



# 宇部市立図書館 リニューアル市民委員会 開催報告書

## 第 1 回リニューアル市民委員会

日付:2022 年 9 月 10 日(土)

時間:10:00-12:00

会場:宇部市立図書館 2F 講座室

# 目次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 実施概要               | 2  |
| 日時                 | 2  |
| 場所                 | 2  |
| 参加人数               | 2  |
| プログラム              | 2  |
| 要約                 | 2  |
| 基本構想概要版を読んだ感想      | 3  |
| 感想・意見              | 3  |
| 検討を深めるべき議題         | 4  |
| 考察                 | 5  |
| 図書館見学ツアーをして気がついたこと | 6  |
| 一階部分について           | 6  |
| 中庭について             | 8  |
| 二階部分について           | 8  |
| 管理運営・設備            | 9  |
| 考察                 | 9  |
| 記録写真               | 10 |

# 実施概要

## 日時

2022 年 9 月 10 日(土) 10:00-12:00

## 場所

宇部市立図書館講座室、オンライン

## 参加人数

合計 17 名（会場参加:15 名、オンライン参加:2 名）

## プログラム

1. 開会の挨拶
2. 宇部市立図書館リニューアル基本構想の説明
3. 自己紹介
4. 基本構想概要版を読んだ感想をシェアしよう
5. 休憩
6. 宇部市立図書館見学ツアー
7. 図書館見学ツアーをして気がついたことを整理しよう
8. グループの意見を共有しよう
9. 発表
10. 次回について

## 要約

宇部市立図書館リニューアル基本計画(以下、基本計画)策定に向けた初回として、以下の3点を重視してプログラムを企画した。1点目は、初対面となる委員同士の緊張を緩和し、より活発な議論の場づくりをすること。2点目は、議論の土台となる宇部市立図書館リニューアル基本構想(以下、基本構想)を全員で確認し共有すること。最後は、リニューアル対象である現在の図書館を、一緒に歩いて実際に見ること、と設定した。

1点目については、半数近い委員が、2020年度に実施した基本計画策定時の市民委員経験者であったことや、比較的図書館をよく使う利用者であることから、序盤からグループごとに積極的に意見が交わされる様子が見られた。

2点目については、基本構想概要版を事前に郵送していたことに加え、当時の委員会におけるワークショップ成果物を会場に掲示する等の工夫を行い、限られた委員会内で可能なかぎり既存の議論の流れに触れられる機会を創出した。

3点目については、図書館職員の引率のもと、普段は入れない閉架書庫等を含め、館内をめぐった。図書館のリニューアルを利用と管理運営の両側面から議論するために、現在の状況を一緒に共有する時間と、同時に図書館職員とのコミュニケーションを図ることができた。

# 基本構想概要版を読んだ感想

市民委員を3グループに分け、それぞれのグループで基本構想概要版を読んだ感想や意見・コメントを自由に記載した。基本構想概要版は事前に郵送し、また当日基本構想の概要に関する説明の時間を改めて設けた。

基本計画策定のための土台となるため、全体で基本構想の内容を確認することは重要である。今回の委員の意見から、感想や意見の部分と、基本計画に向けてより一層検討を深めなければならない課題を抽出する。

## 感想・意見

---

### (基本構想について)

- それぞれが抽象的でよくわからない
  - 「宇部らしい」とは？
  - 宇部共同義会 宇部方式とは？
  - 「伝統的な読書観」→「新しい読書観」とは？
  - 「現代版・宇部方式」の実践の具体的内容がよくわからない
  - 媒体の拡張、多様な媒体とは、デジタルやレンタルみたいなイメージか？
  - 知識(ビジョン)や情報が循環する環境とは？
- 「まちの重要な場所との連携」について、連携は重要だが分散になるおそれがないか不安
- ひとつづくりをしていくことが、まちづくりにつながると思うのでよいと思う
- 「職員の少なさ」は逆に効率化が進んでいる指標ともなりうるのでは
- 追いつけないデジタル化に無駄に投資していないか
- 場・資料・人材は重要、職員が県内で少ないのが気になる
- 専門資格としての司書の存在は大きい

### (リニューアルについて)

- どの程度のリニューアルをするのか
  - 骨組みから変更するのか、配置や利用の仕方を変えるのか、建て増しするのか等

### (利用者像について)

- 「子どもから大人まで」と言うとき、「働く社会人」が位置付けられていないのではないか
  - 中間世代の利用についても考えたい
- 子どもたちの居場所・新しい学びの場、対象とする子どもの年齢は何歳くらいを想定しているのか

## 検討を深めるべき議題

### (利用者体験の充実)

- 誰もが気軽に利用できる場であってほしい
- 使い勝手の悪さの解消が必要(検索システム等)
- 図書貸出機能以外の機能の拡充が大切
- 多目的に利用できるスペースや機械の設置が必要
- インターネット環境の充実に電源(コーナー利用)を十分に提供すること
- ビブリオバトル読書会等を多く開催し、人と人が出会える場をつくる

### (子どもたちの居場所・まなび)

- 子どもたちの居場所づくり、子育て世代や中高生が立ち寄りやすい場には何が必要か？
- 「子ども達の居場所」となるというのはとてもよいと思うが、他の世代の人にとっても居場所となるとよい
- 年齢別に分けたゾーンがあれば良い(幼児、児童、学生、大人等)
- 学習室の充実をして各世代が学習できる場をつくる

### (宇部らしさ)

- 宇部が音楽先進市であったことを理解し、音楽資料をもっと拡充してほしい
- 宇部市についての情報発信や資料の提供がもっと必要
- 宇部市コーナーや解説等がほしい
- レジデンスプログラム\*によって、アート以外の宇部市の強みをより深掘りする
  - 医学・スポーツ・工業・エネルギーの分野等

### ※レジデンスプログラム

宇部市では、UBE ビエンナーレ開催にあたり、彫刻家が一定期間滞在して市民や地域との交流を図りながら、実物作品を制作する「アーティスト・イン・レジデンス」を実践しています。



(画像出典:宇部市公式ウェブサイトより <https://www.city.ube.yamaguchi.jp/kyouyou/bunka/1004771.html>)

### （管理運営）

- リニューアル以前の問題として、市民一人当たりの図書購入費が平均を大幅に下回っていて、職員数が人口一万人当たりの県平均1/2の現状をはじめて知った
- あまり図書館を利用しない人への情報発信は、どのようにするのか？
- つい最近「閉架」の存在を知った、長年いまの館には無いものと思っていた
- 館内案内をもう少し詳しく、入りやすくしたほうがよい
- 情報弱者への対応が必要（デジタルデバイド\*の解消）

### ※デジタルデバイド（情報格差）

インターネットやコンピューター等の情報通信技術を、利用できて恩恵を受けられる人と、利用できず恩恵を受けられない人との間に生まれる、知的・経済的・機会的な格差のこと。

### （その他）

- まちかどブックコーナーは要るか？
- 電子図書館は必要か？
- 現在の図書館行事等に関しては、それなりに満足している

## 考察

---

基本構想内の目指すべき方針に関する感想や意見では、実現に向けた具体的な施策に関する疑問や今後のリニューアルの程度に関する質問が多く挙げられた。また、検討を深めるべき課題では、現在の宇部市民の仕事や学業・暮らしに寄り添った利用体験の充実と、子どもたちの居場所づくり、宇部らしさに関する意見や提案があった。

今後の委員会でのより実りある議論に向けて、事業全体の流れや検討プロセスを、繰り返し丁寧に説明していくことが重要である。同時に、今後の事業方針についても可能な限りオープンにし、市民委員会と情報を共有しながら進めることが求められる。

# 図書館見学ツアーをして気がついたこと

委員を2グループに分け、図書館職員の引率のもと、図書館内の見学ツアーを行った。オンラインの参加者は、図書館の公式ウェブサイトにある館内マップ等を見ながら仮想的なツアー形式で実施した。利用者が入れるところだけではなく、普段は入れない閉架書庫等も案内し、現状の施設の状況を一緒に歩き、適宜説明を受けながら共有した。

リニューアルに向けて、現状の施設で良いと思える部分や改善が必要と思われる部分を見つけ、今後の市民委員会での議論の核となるテーマを整理する。

## 一階部分について

### (一般コーナー)

- 全体的に暗さを感じる
- 開放感があって理想的
- 大型本の書架が低く取り出しづらい、低い机等があるとよいのでは
- 下段は高齢者になると利用しづらい
- 宇部市立図書館の特徴・美術本・彫刻等をもっとわかりやすく周知してはどうか
- 一番下の本棚は斜めになっていると見やすい
- 美術書が入口にあるのはよい

### (閲覧席・学習席)

- 学習エリアは相当な拡大と分散配置が望ましい
- 学習が図書館に来るきっかけとなっている
- 学習が目的の人は本を見ていないかもしれない
- 自習机を増やす



### (児童コーナー)

- その他のコーナーに比べて機能が発揮されている
- 窓が大きく明るい雰囲気があって、とてもよい
- 書架の高さを低くするとよい



### (新聞・雑誌コーナー)

- 年配の人が多い

### (映像・リスニングコーナー)

- 利用者への認知がうまくいっていない
- CD 類の貸出手続きをシンプルにできないか
- CD 類をその場で視聴できるとよい
- 音楽 CD 類の内容や地域の音楽家等のスペースとともに充実できるとよい
- 利用促進がされておらず、もったいない

### (参考調査・郷土資料室)

- 入りづらい
- もっと利用しやすくするにはどうしたらよいか考えたい
- 宇部市の資料をもっと見やすいところへ置くとよい、解説等もつけられるとよい
- 宇部出身の作家本紹介のコーナーをもっと充実させたい

### (展示室)

- 入ってみたいくなるような入口部分のあり方が大事
- 展示室での活動が外側から見えづらいため、入りづらい雰囲気がある
- 図書館での展示でなくてもよい企画が多いのではないかと

### (彫刻)

- 彫刻がもったいない感じ

### （今後の展望）

- 図書サービスで得た知識を集約して図書化できるとよい
- コーナーの位置・レイアウトの見直し

### 中庭について

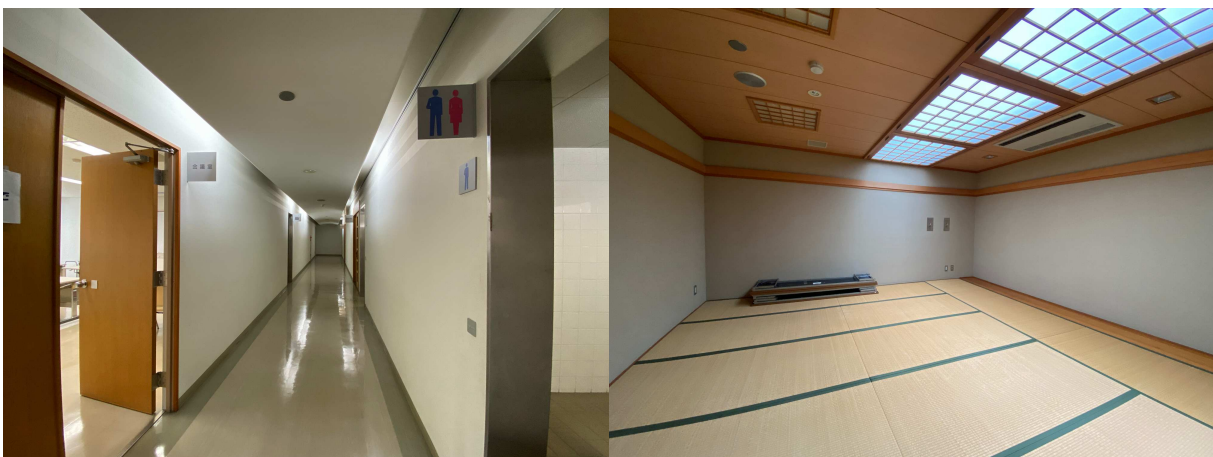
- 庭をもっと活用できるとよい
- お茶を飲んだり、おしゃべりをしたりする場所にならないか
- プチマルシェ的な利用のあり方を考えたい



### 二階部分について

#### （和室・会議室）

- 利活用が少ない部屋があり、市民がもっと利用しやすくなるとよい
- 靴を脱ぐことがしづらい人も多いため、和室を洋室にしたほうが利用しやすい
- 和室・会議室は必要ないのではないか、もっと学習室をつくってほしい



## 管理運営・設備

### (管理運営)

- 各分野を専門的に扱える人材の拡充
  - 多様な人材を維持するために検討しなければならないことの整理が必要
- 蔵書の新陳代謝基準はどうなっているのか
- 登録団体の基準の見直し・廃止をすべき
- 閉架書庫の保存環境を見直す
  - 書庫の換気が悪い
  - 狭い・暑い・暗い
- 館内表示がわかりづらい、目につきづらい

### (設備)

- トイレがもっと使いやすくなるといい



## 考察

館内全体の明るさや雰囲気、中庭との接続・利活用、書架の高さや棚のしつらえといった要素は、今後の設計段階で考慮が必要な点である。特に中庭との接続・利活用については、カジュアルな交流の場としてのカフェやマルシェといった役割を要望する意見もあり、施設とまちをつなぐ間の役割として、交流やまちづくりといった多角的な視点からの検討が求められる。

一方で、閲覧席や自習室、映像・リスニングコーナーや参考調査・郷土資料室等については、リニューアル後の利用イメージを、委員会内でさらに具体的に議論し、計画に落とし込んでいく必要がある。

# 記録写真



